

# 西神納地域 住民アンケート 分析レポート

～結果から何ができてくるか？～

平成29年11月

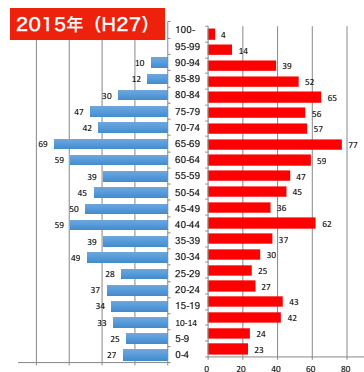
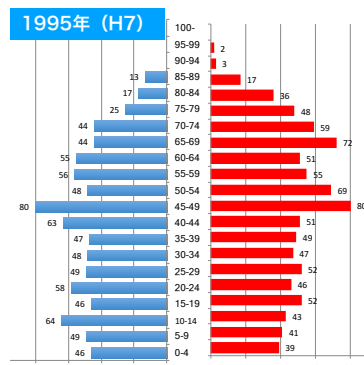
NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

## 西神納地域

国勢調査データから見る過去20年間の人口推移

西神納地域の人口ピラミッドの推移

	← 国勢調査データ →				独自推計値	
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年※
総人口 (人)	1,764	1,918	1,749	1,542	<b>1,601</b>	<b>1,486</b>
	20年間で9.2%減少				▲ 115	
0～14歳 (人)	282	273	239	201	<b>174</b>	<b>148</b>
	20年間で38.3%減少				▲ 26	
15～64歳 (人)	1,102	1,135	1,068	927	<b>850</b>	<b>767</b>
	20年間で22.9%減少				▲ 83	
65歳～ (人)	380	510	442	414	<b>577</b>	<b>571</b>
	20年間で51.8%増加				▲ 6	
高齢化率	21.54%	26.59%	25.27%	26.85%	<b>36.04%</b>	<b>38.44%</b>
(再掲) 75歳～ (人)	161	274	219	201	<b>332</b>	<b>324</b>
(再掲) 85歳～ (人)	35	83	47	57	<b>134</b>	<b>153</b>



※国勢調査データを基に都岐沙羅パートナーズセンターが独自に推計した数値

(参考) 2015年の高齢化率 新潟県平均：29.85%/全国平均：26.63%

西神納地域もじわじわと少子高齢化が進展している！

# 中学生以上の全住民アンケートの実施

神林地区の5つのまちづくり協議会が同時に実施。

## 【西神納地域】

配布数：1,296通

回収数：951通

回収率：**73.4%**

かなりの高回収率！


↓  
地域住民の意向がしっかりと反映されているデータである

**神林地区 まちづくりアンケート**  
 ～皆さんの声をお聞かせください～

神林地区にお住いの皆さん、こんにちは！暑くなってきましたが、元気でお過ごしでしょうか。

さて、**神林地区のまちづくり協議会**では、地域で暮らす皆さんから、日頃思っていることやご意見をお聞きし、これからもみんなで地域を元気にする取り組みを検討していくため、**中学生以上全員を対象としたアンケート**を行うことにしました。「おら、わがんねえ」なんて言わずに、思っていることをそのままお聞かせください。

平林中学校と神納中学校の生徒の皆さんは、学校でアンケートを記入してもらうので、ご家庭へはアンケート用紙を配付していません。



**問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。**

(年齢)	1. 13～19歳	2. 20～29歳	3. 30～39歳	4. 40～49歳
	5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70～79歳	8. 80歳以上
(性別)	男性	女性		

**問2 あなたのお住まいはどの地域ですか。あてはまるものに○をつけてください。**

1. 平林地域	2. 砂山地域	3. 神納地域	4. 神納東地域	5. 西神納地域
---------	---------	---------	----------	----------

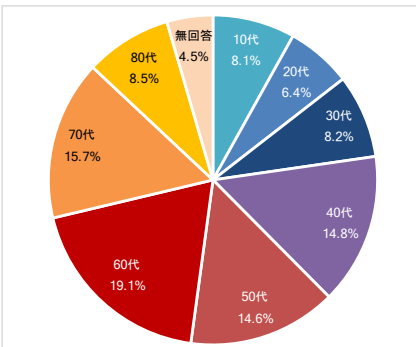
**問3 あなたの仕事にあてはまるものすべてに○をつけてください。**

1. 農業	2. 林業	3. 漁業
4. 自営業	5. 会社員	6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト	8. 専業主婦(夫)	9. 中学生
10. 高校生・高専生	11. 大学生・短大生・専門学校生	
12. その他( )	13. 無職	

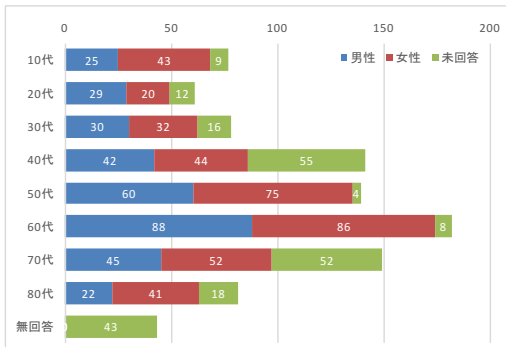
1

## 回答者属性

回答者属性（年代別）



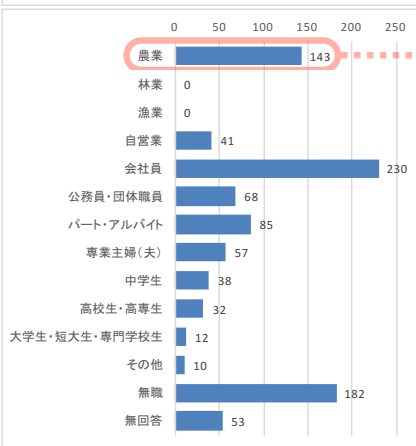
回答者属性（年代別×男女別）



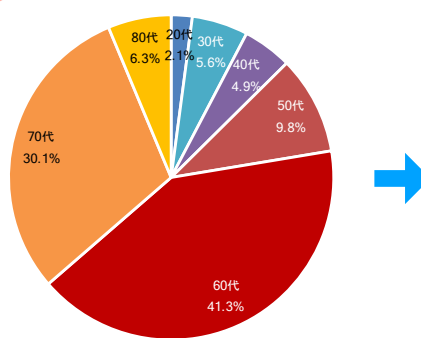
若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。



世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！



農業従事者の年代構成（割合）



農業従事者の年代構成（人数）

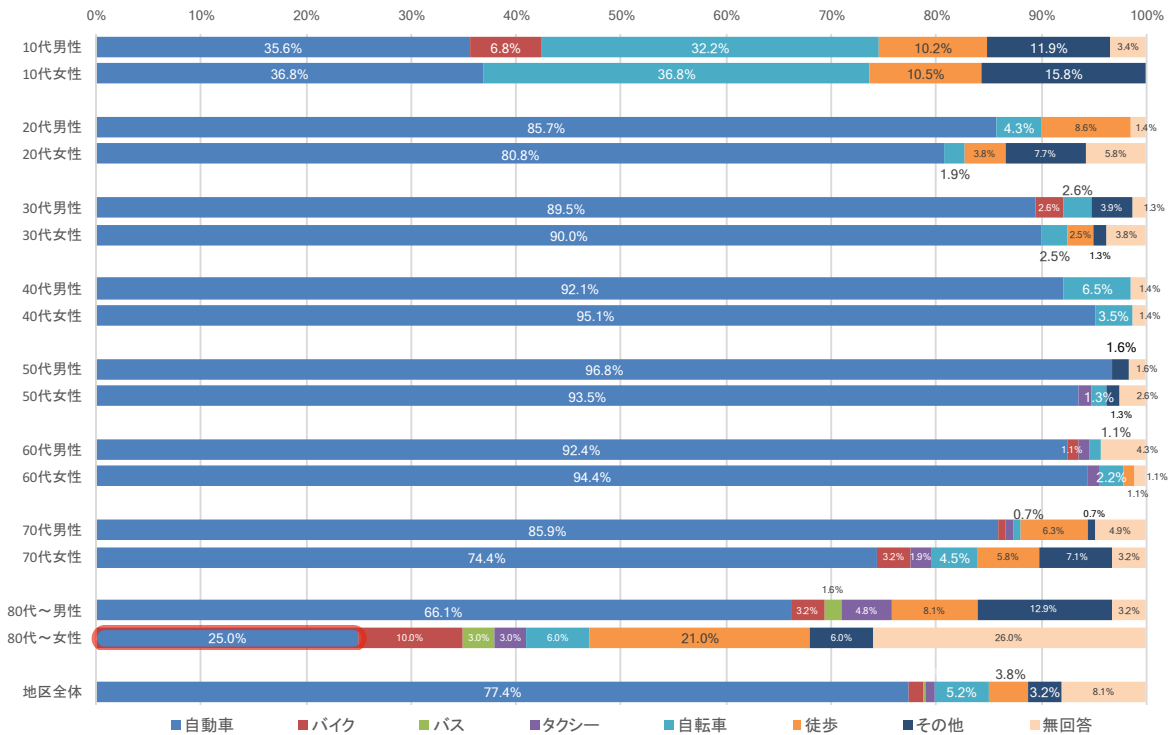
年代	人数
10代	0
20代	3
30代	8
40代	7
50代	14
60代	59
70代	43
80代	9
計	143

農地の維持管理はどうなりますか？

農業従事者の77.7%が60代以上 → 20年後は50人程度!?

回答者属性（職業）

# 年代別・男女別の日常的な交通手段



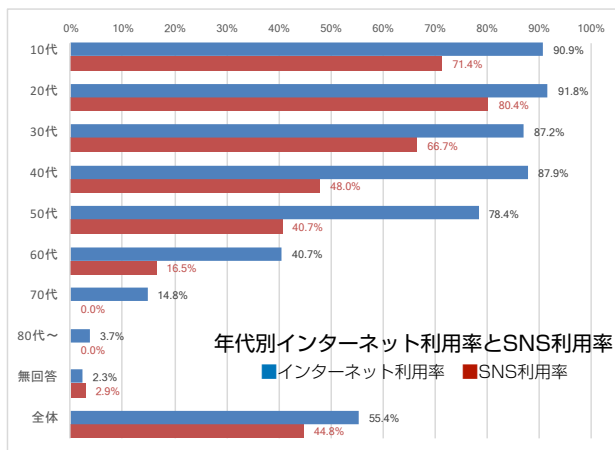
日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

80代になると車を運転する人の割合が減少  
(特に女性)

(要確認) この方々の運転免許保有率

# インターネットの利用割合

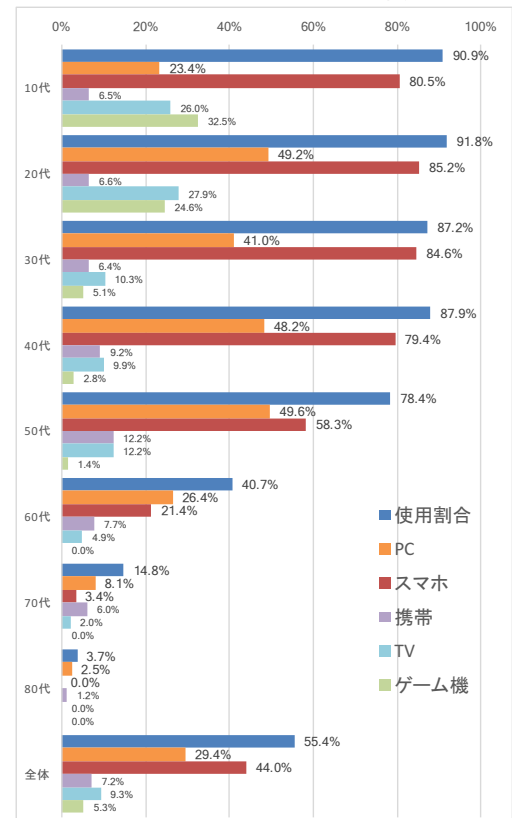
年代別インターネットの利用率



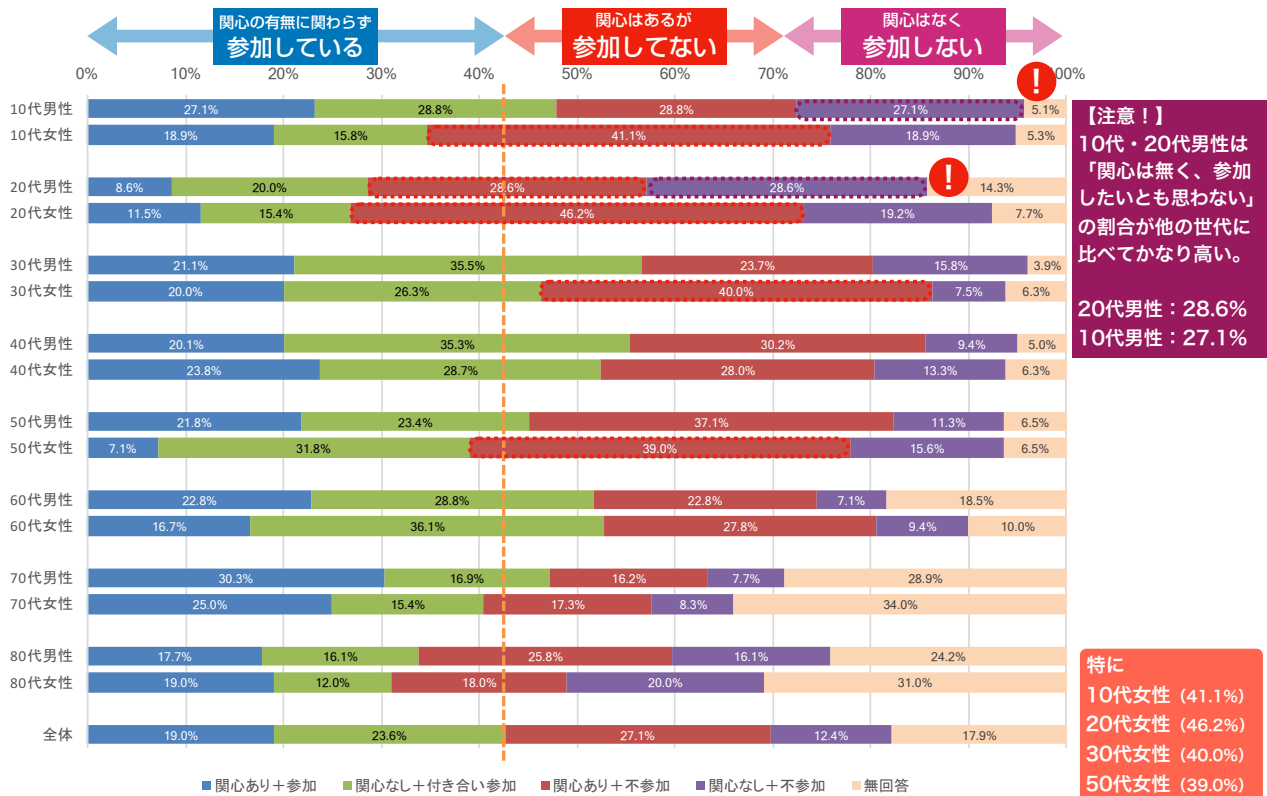
- 全体の半数以上がインターネットを利用。
- **40代以下は約9割**がインターネットを利用。(50代でも約8割)
- **大半がスマホ・携帯で利用**しており、若い世代ほどその割合は高い。
- 30代以下は**3人に2人以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での  
情報伝達の方が効果的?!

年代別インターネット利用における使用機器



# 地域活動への関心



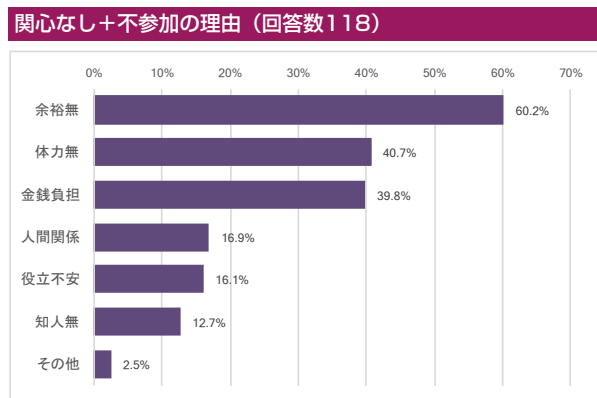
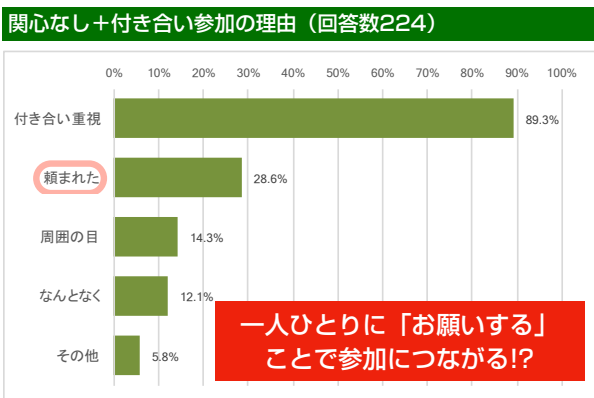
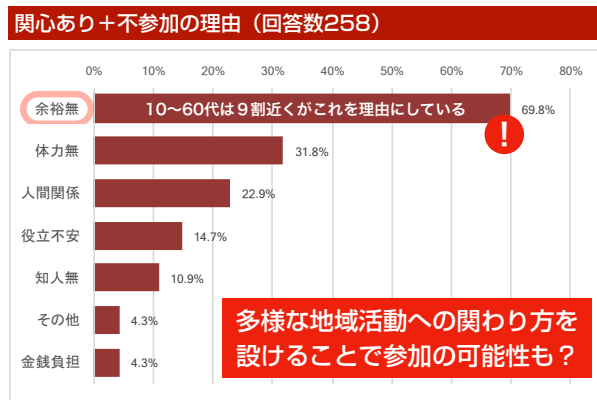
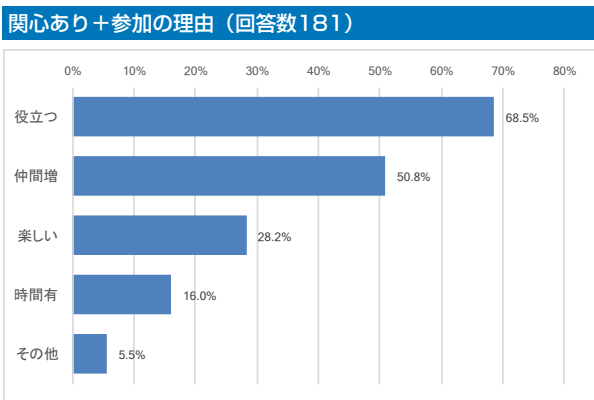
**【注意！】**  
10代・20代男性は「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べてかなり高い。

20代男性：28.6%  
10代男性：27.1%

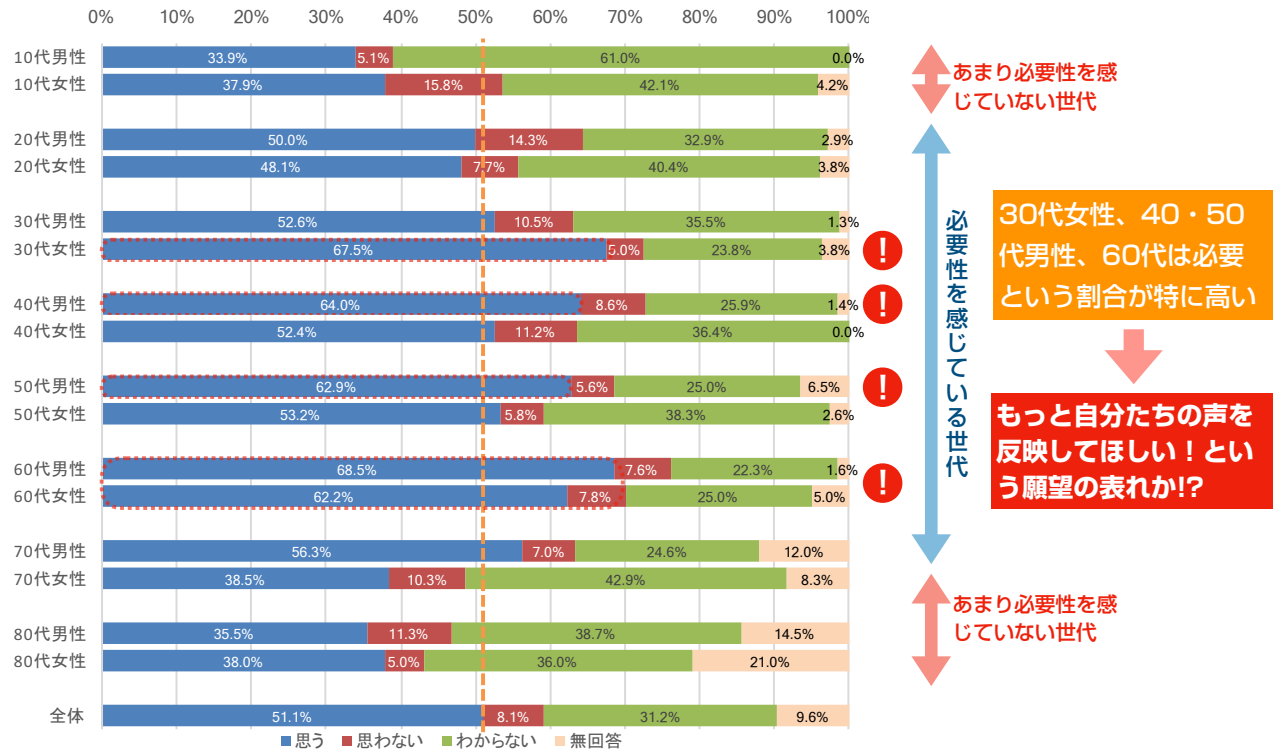
特に  
10代女性 (41.1%)  
20代女性 (46.2%)  
30代女性 (40.0%)  
50代女性 (39.0%)

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心がない」という訳ではない  
「関心があっても参加していない」割合が高い世代には、その理由を探ることが大切！

# 地域活動への関心 (それぞれの理由) ※複数回答

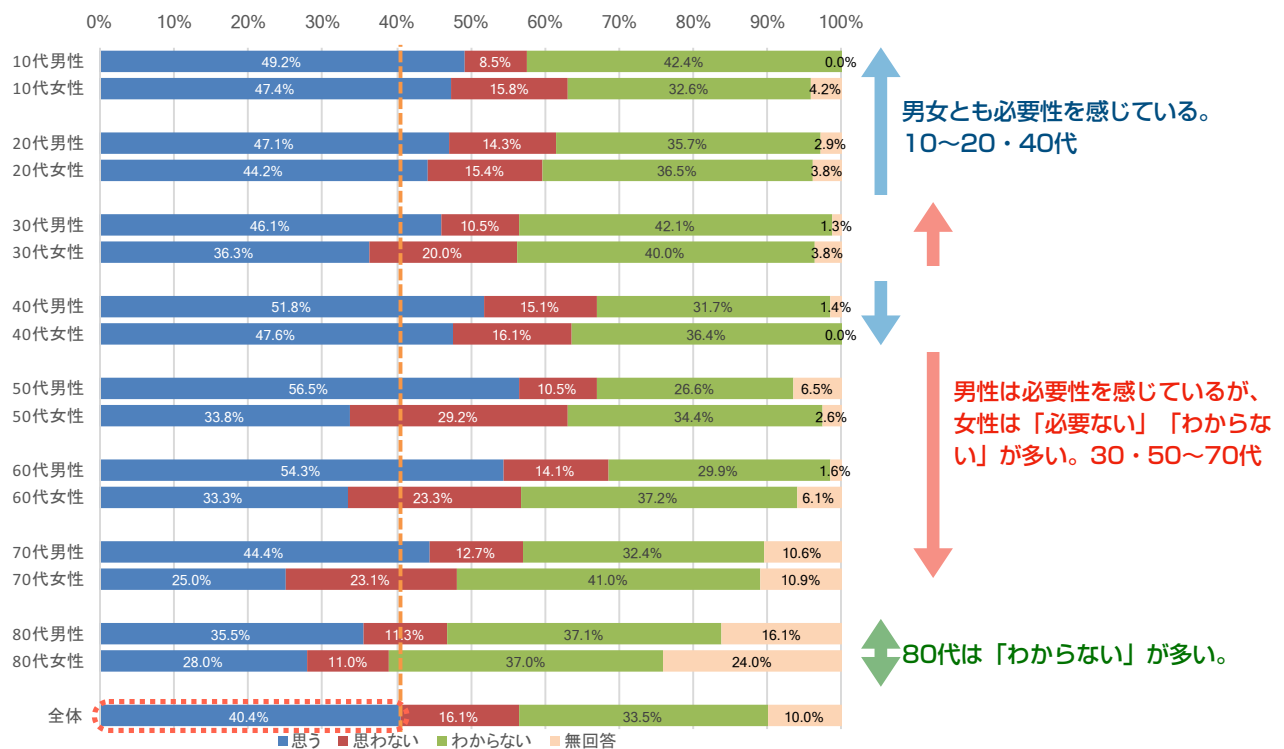


## 女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別)



地域全体では約半数が「必要」と考えている。

## 定住受入の必要性 (年代別×男女別)

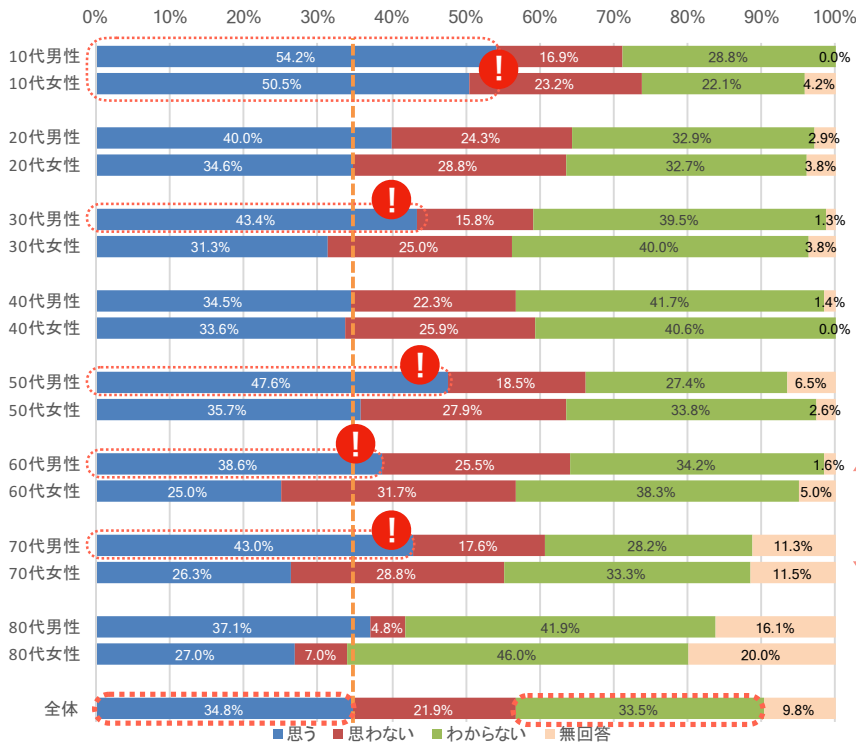


地域全体では4割が「必要」だと思っている。

60代以下の男性は半数近くが必要と回答

※全体的に男性は必要性を感じているが、女性はさほどでもないという傾向。

## 他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)



10代は「必要」が半数以上！

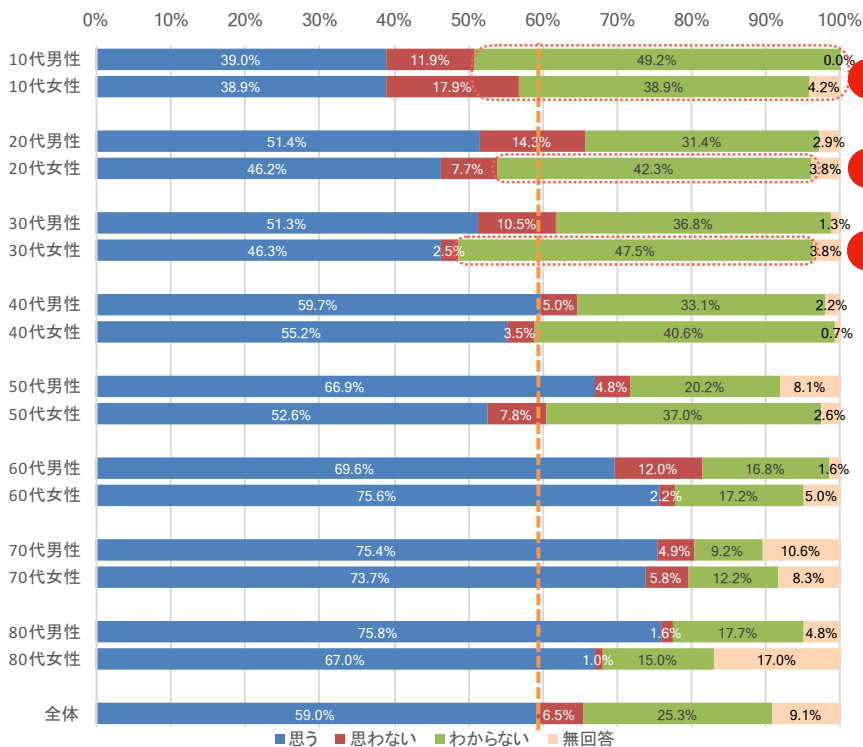
10代および男性は他地域との交流の必要性をより感じている。

60~70代女性は、「必要性を感じていない」「わからない」の割合が高い。

他地域交流の必要性は男高・女低という傾向

地域全体では1/3が「必要」だと思っているが「わからない」もほぼ同割合。

## この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)



「わからない」が多い世代 10代/20~30代女性

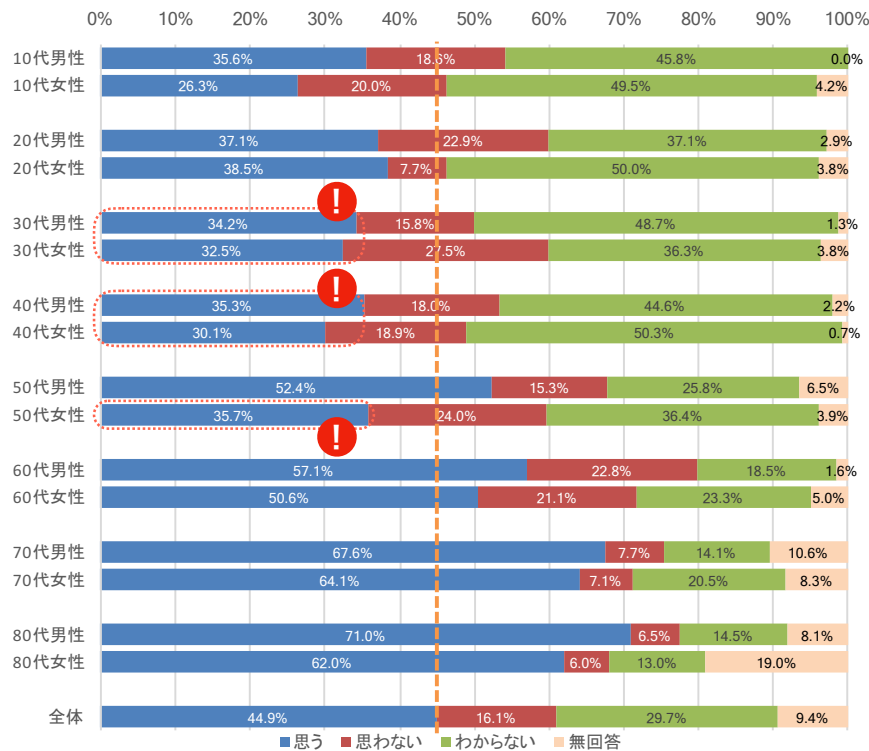
【注意！】このままだと、人口減少はさらに進行する可能性あり

人口減少を招く出生率の低下は、20~30代女性の人口に大きく影響される。

「住み続けたいと思う」が約6割

(注意！) 30代以下は地区平均よりも低く、10代は4割以下。

# 自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ (年代別×男女別)



「わからない」が多い世代

30・40代という子育て最中の親世代で「住み続けてほしい」と回答したのは約1/3程度

10代の定住意向（前グラフ参照）が他の世代と比べて低い（4割以下）なのは、これが影響しているのではないかと

「住み続けてほしい」が多い世代

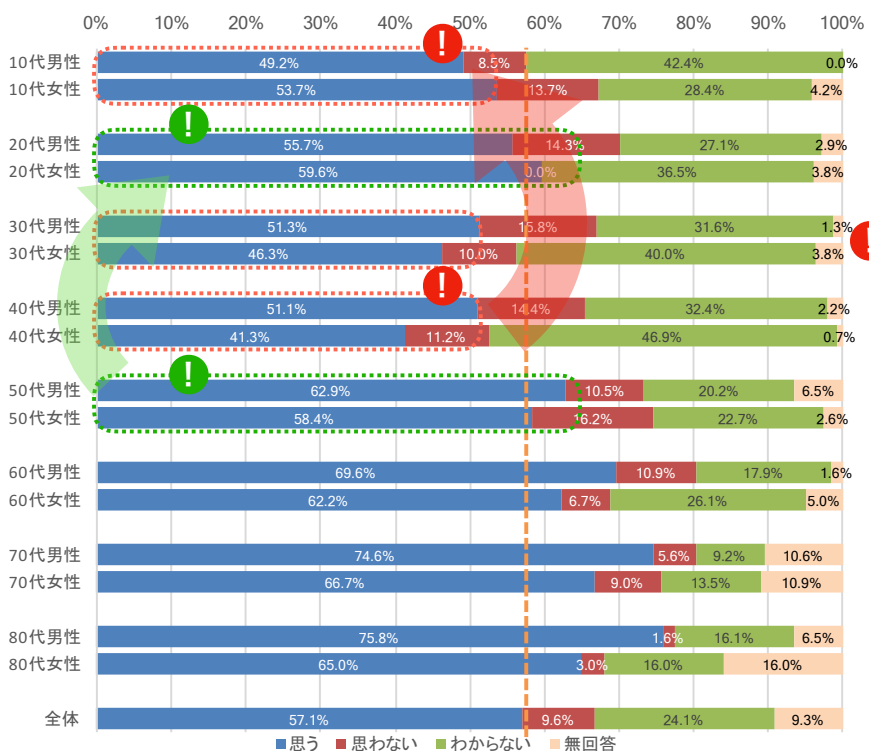
【注意！】

このままだと、人口減少はさらに進行する可能性あり

地域全体では「住み続けてほしい」が44.9%

40代以下は「思わない」「わからない」が上回っている

# 地域への愛着の有無 (年代別×男女別)



地区平均よりも愛着が低め

【注意！】

親世代の愛着度合いが、子に影響していないかと

40代→10代

50代→20代

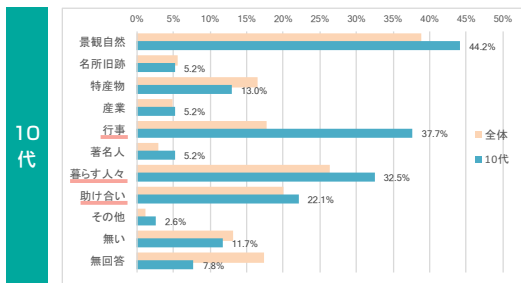
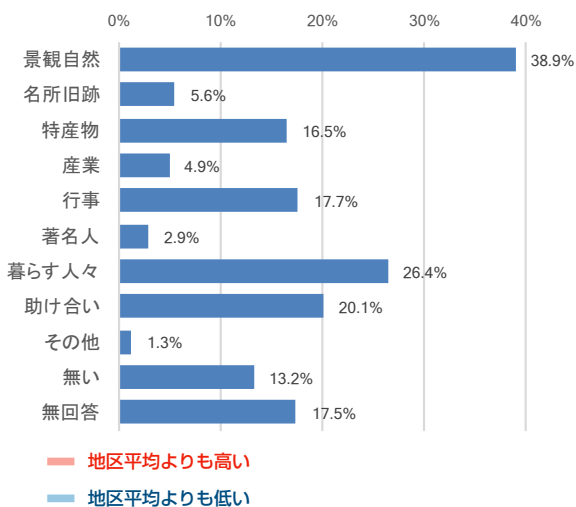
相関関係があるのでは？

地区平均よりも愛着は高め

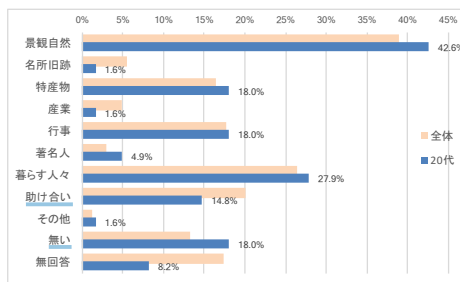
「愛着がある」は57.1%

# 誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

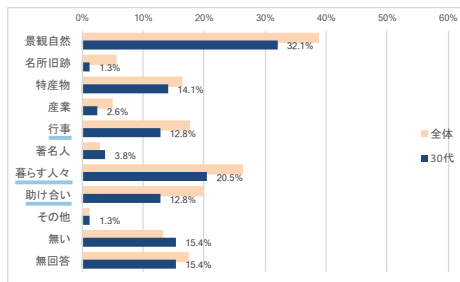
地区全体 (複数回答)



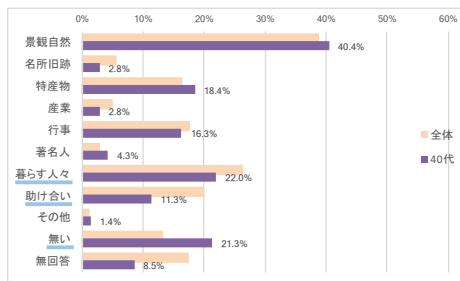
20代



30代

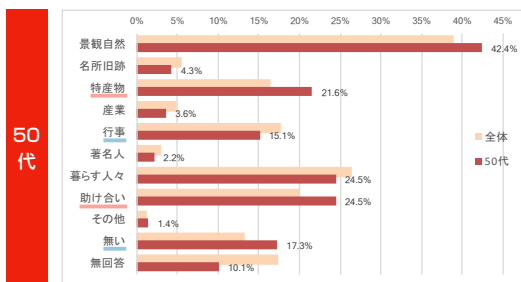
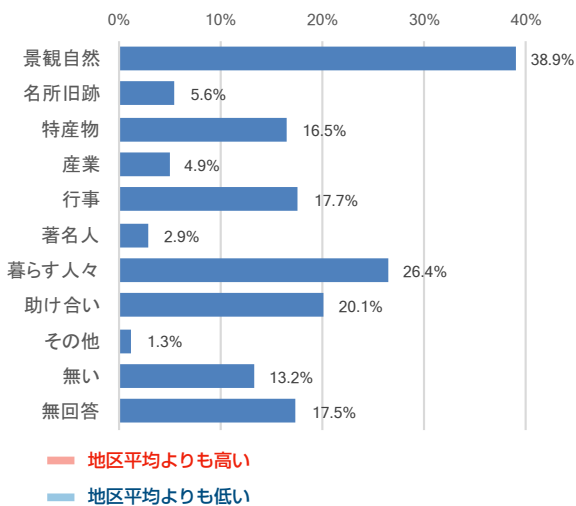


40代

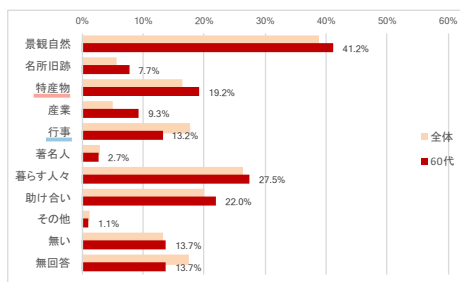


# 誇りに思う地域資源は何か (50代~)

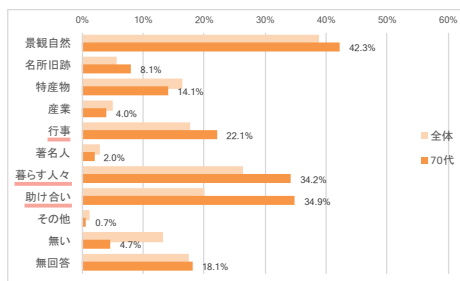
地区全体 (複数回答)



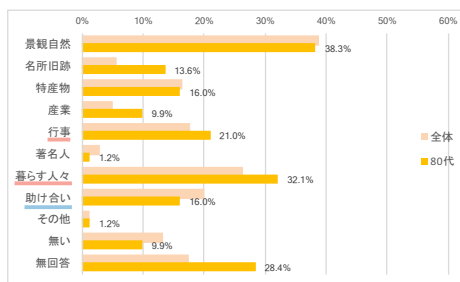
60代



70代

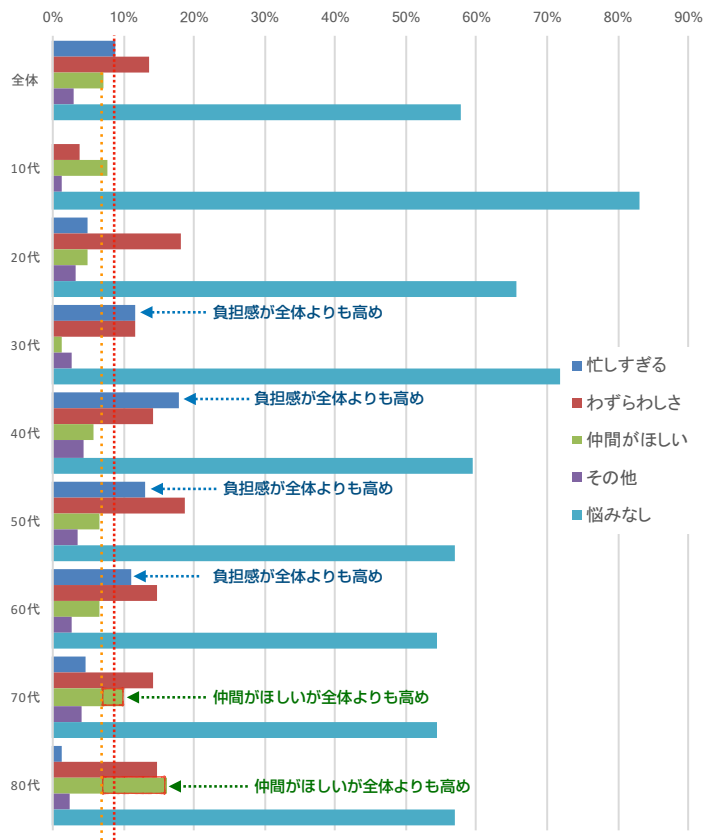


80代





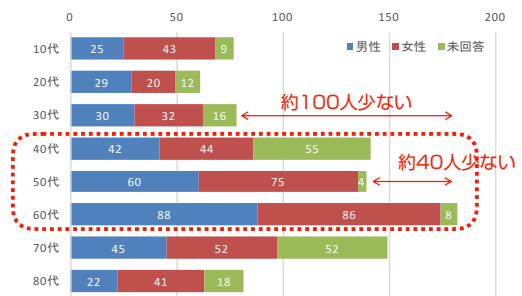
# 近所づきあいでの悩み



• 全体の6割近くが「悩みなし」

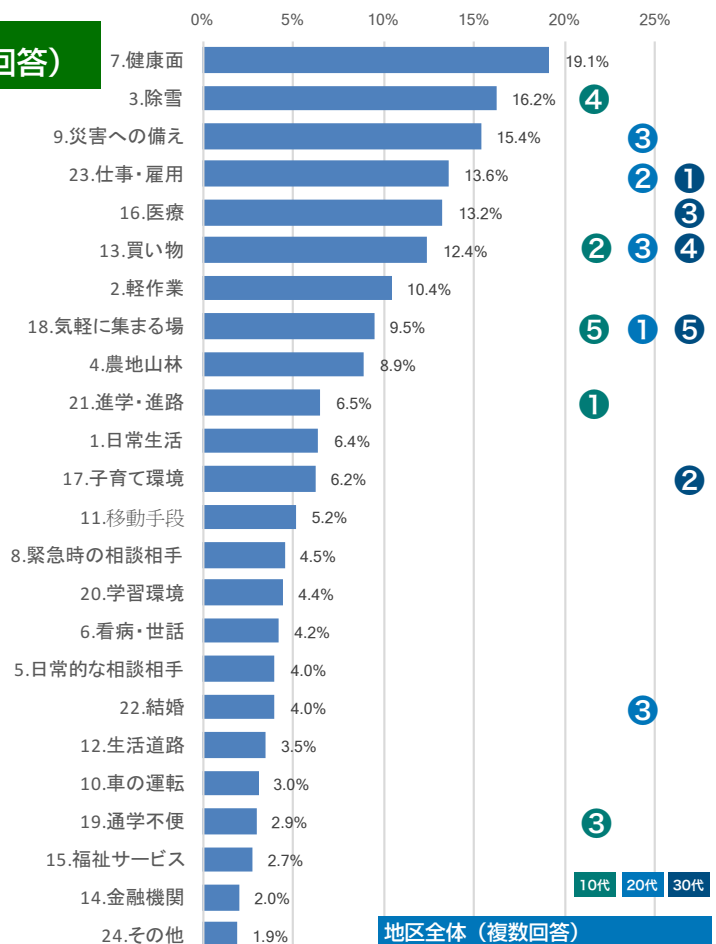
• 20~60代は「忙しすぎる」という悩みが、70~80代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりもわずかに高い。

人は減っているのに、役割・仕事量が変わっていなければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなるのでは？



# 暮らしの中の困りごと（複数回答）

年代	困りごと	割合
10代	1 進学・進路	45.5%
	2 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	19.5%
	3 学校が遠く、通学が不便である	15.6%
	4 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	11.7%
	仲間と気軽に集まる場所がない	11.7%
20代	1 仲間と気軽に集まる場所がない	26.2%
	2 仕事・雇用	21.3%
	3 災害への備えや避難	16.4%
	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	16.4%
	結婚	16.4%
30代	1 仕事・雇用	23.1%
	2 少子化による遊び相手の確保など子育て環境	17.9%
	3 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	15.4%
	4 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	14.1%
	5 仲間と気軽に集まる場所がない	11.5%



地区全体（複数回答）

# 暮らしの中の困りごと（複数回答）

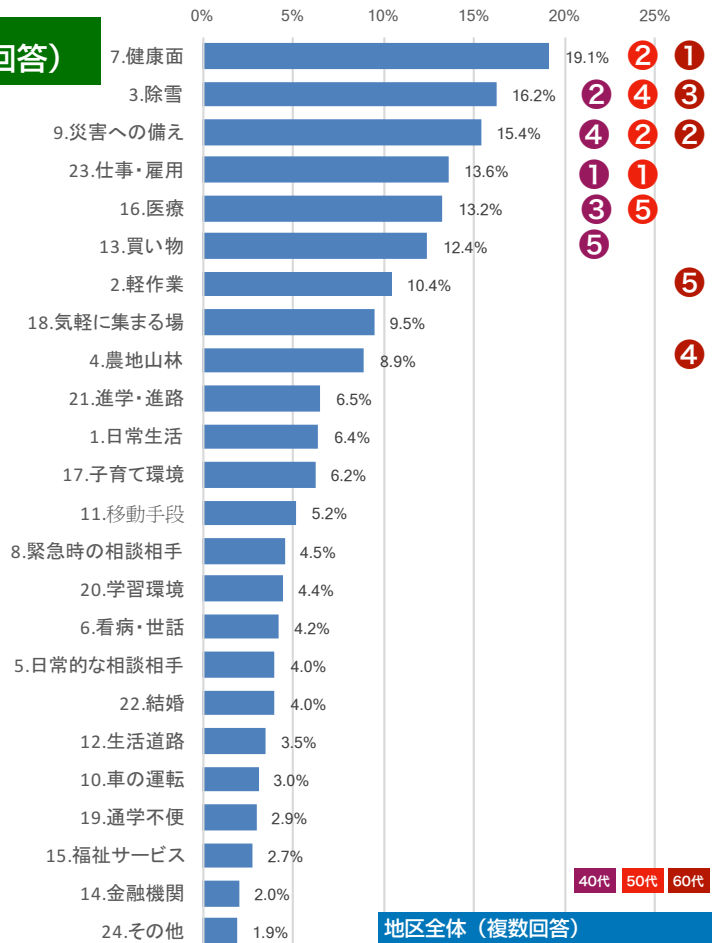
40代	
1 仕事・雇用	27.0%
2 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	22.0%
3 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	14.2%
4 災害への備えや避難	14.9%
5 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物に不便	14.2%

50代	
1 仕事・雇用	27.3%
2 健康面への不安がある	23.0%
3 災害への備えや避難	23.0%
4 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	22.3%
5 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	18.7%

60代	
1 健康面への不安がある	25.3%
2 災害への備えや避難	19.8%
3 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	15.9%
4 農地、山林の維持管理	14.8%
5 庭作業(草取り)、電気器具修理など軽作業	11.5%

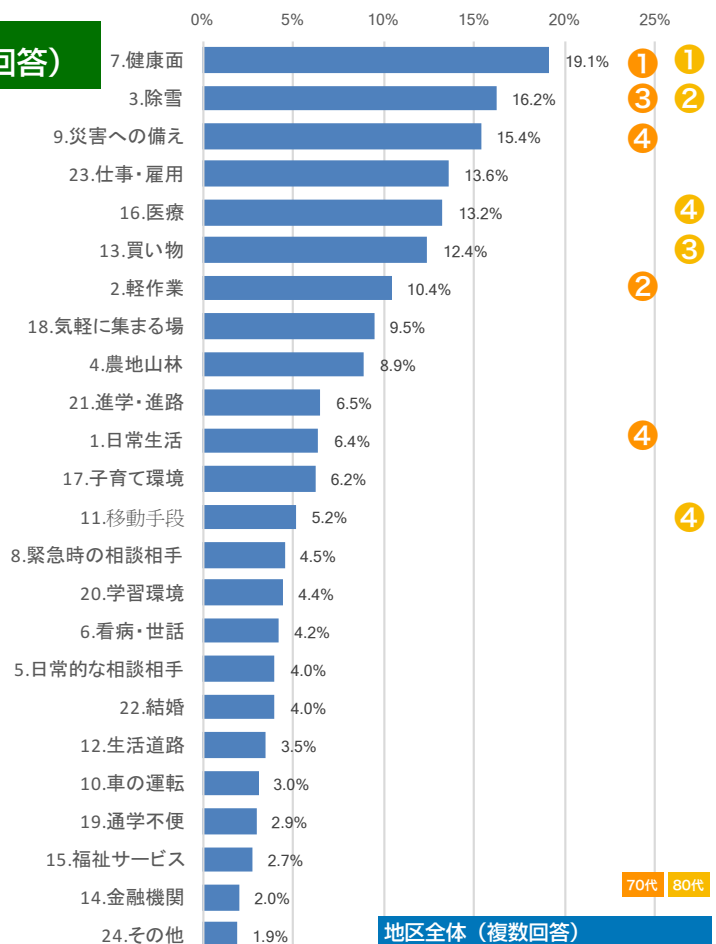


# 暮らしの中の困りごと（複数回答）

70代	
1 健康面への不安がある	30.2%
2 庭作業(草取り)、電気器具修理など軽作業	18.8%
3 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	16.1%
4 食事づくり、洗濯、ゴミ出しなどの日常生活	13.4%
5 災害への備えや避難	13.4%

80代	
1 健康面への不安がある	42.0%
2 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	19.8%
3 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物に不便	18.5%
4 買い物・通院などの移動手段(交通手段)	16.0%
5 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	16.0%



## 暮らしの中の困りごと (まとめ)

### 第1位 健康面への不安がある

60・70・80代でトップ (50代は第2位)  
→自分の健康について不安視している人が多い

### 第2位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪

40・80代は第2位  
60・70代は第3位 →ほぼすべての世代で上位にランクイン  
10・50代は第4位

### 第3位 災害への備えや避難

60代は第2位  
20・50代は第3位 →大半の世代で上位にランクイン  
40・70代は第4位

## 暮らしの中の困りごと (まとめ)

全体での順位は高くはないが、若者・中堅世代特有の困りごと

### 第4位 仕事・雇用 13.6%

20～50代ではこれが上位にランクイン

### 第6位 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便。 12.4%

10～40代ではこれが上位にランクイン

### 第8位 仲間と気軽に集まる場所がない。 9.5%

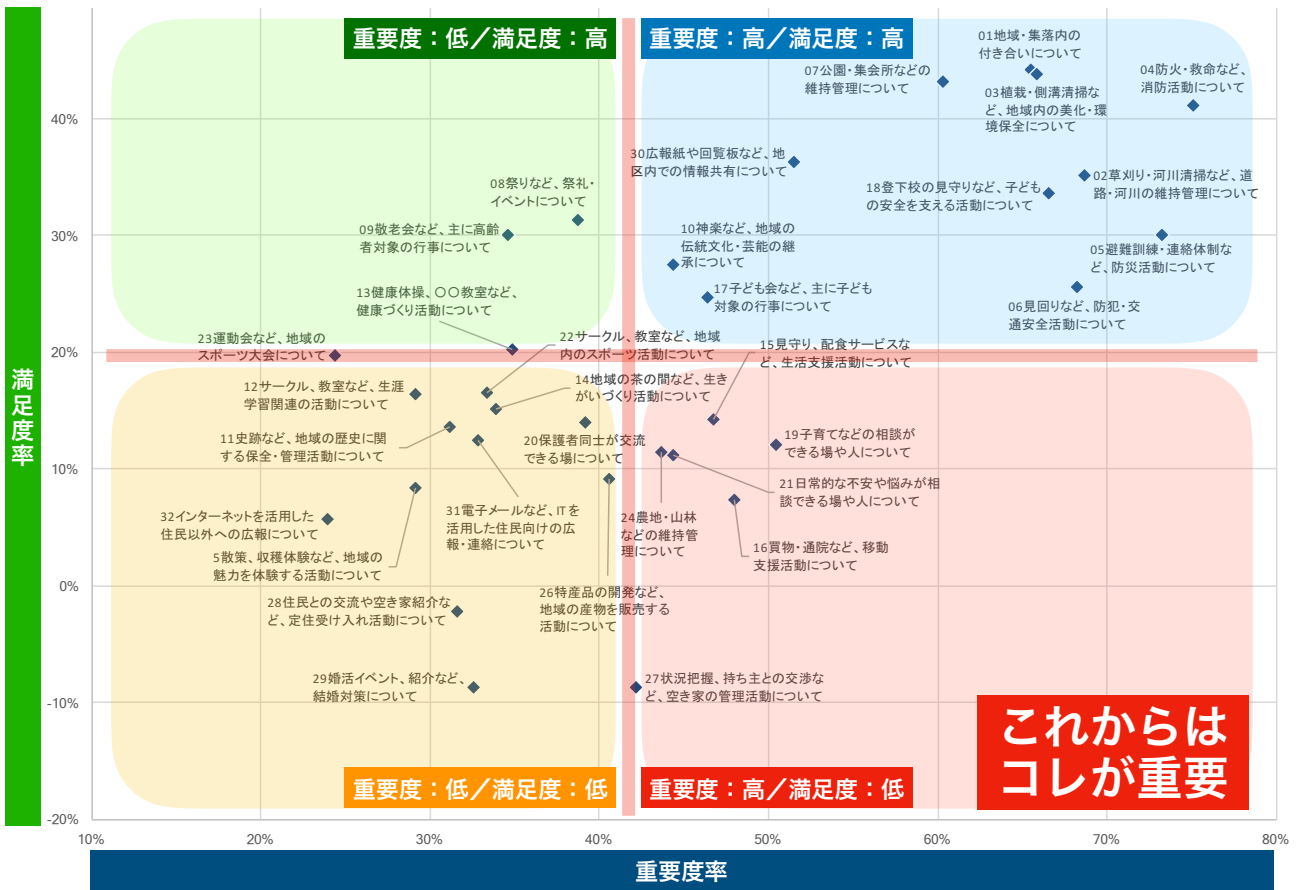
10～30代で上位にランクイン (20代では第1位)

トップ3には入っていないが、要注意な困りごと

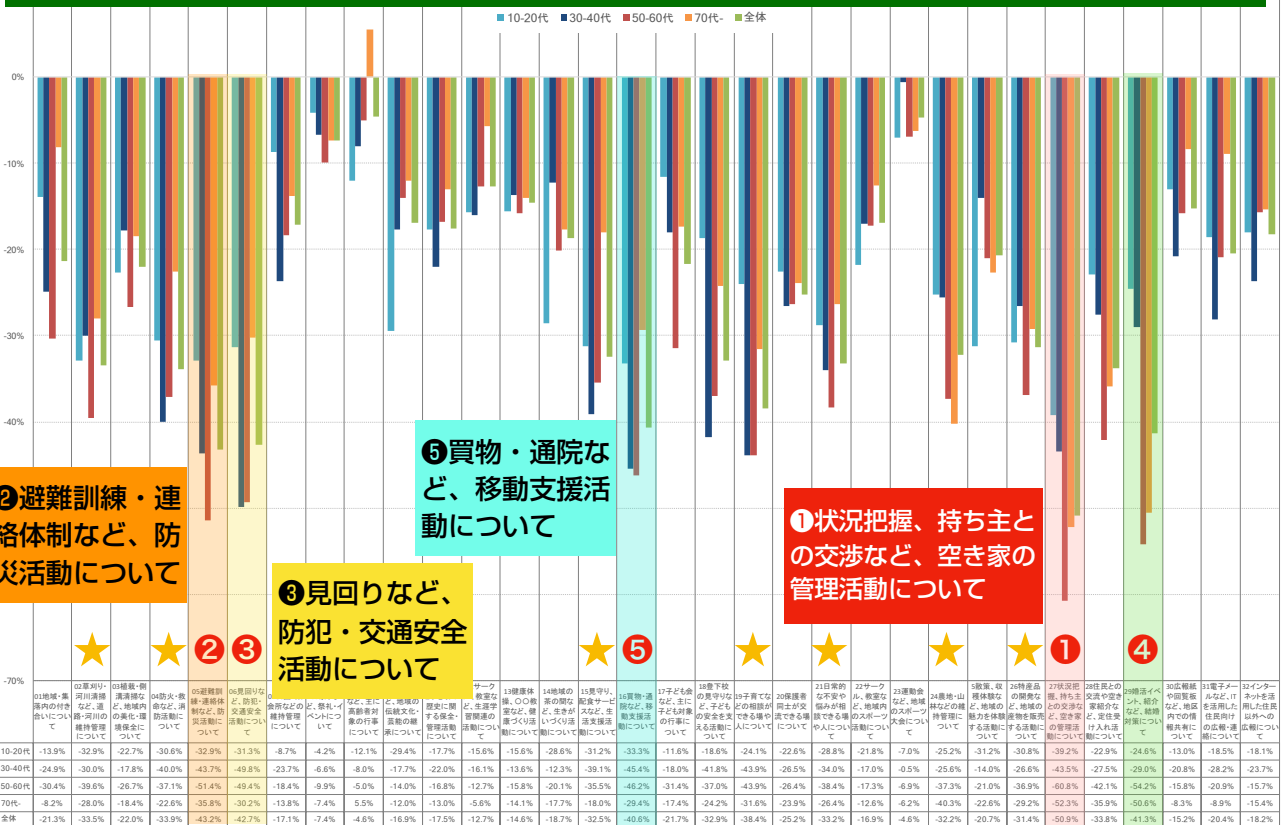
### 第13位 買い物・通院などの移動手段 (交通手段)。 5.2%

80代のみこれが上位にランクイン

# 取り組みの満足度と重要度



# 取り組みの満足度と重要度の評価 (年代別)



※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある (=現状では満足しておらず、これからは重要だと思う) 項目

## 取り組みの満足度と重要度の評価 (まとめ)

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

### ①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について

50代以上は圧倒的に将来に向けてこれが大切だという評価。

### ②避難訓練・連絡体制など、防災活動について

30～60代はこの必要性を強く感じている。

### ③見回りなど、防犯・交通安全活動について

30～40代は特に最もこれを求めている。

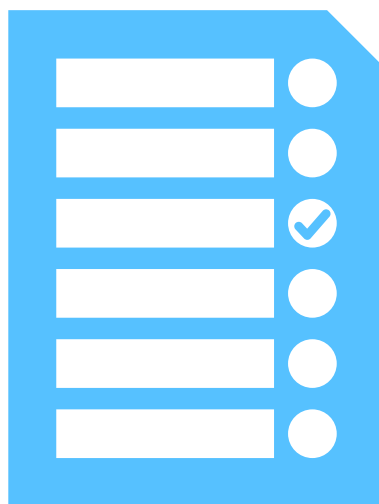
### ④婚活イベント、紹介など、結婚対策について

50代以上は特にこれを求める傾向が強い。

### ⑤買物・通院など、移動支援活動について

30～60代はこの必要性を強く感じている。

◎将来を見据え、力を入れていくべきだと考えられている項目



【30～60代が重要だと思っているもの】

★子育てなどの相談ができる場や人について

★防火・救命など、消防活動について

★日常的な不安や悩みが相談できる場や人について

【50代以上が重要だと思っているもの】

★農地・山林などの維持管理について

【10～60代が重要だと思っているもの】

★見守り、配食サービスなど、生活支援活動について

★見回りなど、防犯・交通安全活動について

★特産品の開発など、地域の産物を販売する活動について

## アンケート結果から見えるポイント①

### ☑農業従事者の77.7%が60代以上。

- ▶ 20年後は50人程度!?

将来的に農地の維持管理はどうする？

### ☑80代になると車を運転する人の割合が減少。(特に女性)

- ▶ 日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加していく。

将来への備えとして、移動支援を今から考えていく必要があるのではないか？

### ☑高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識されている。

- ▶ すでに80代の困りごとの上位には「買い物・通院などの移動手段(交通手段)」が上がっている。
- ▶ 今後取り組むべき重要テーマとしても第5位に移動支援が上がっている。

### ☑全体の半数以上がインターネットを利用

- ▶ 40代以下は約9割(50代でも8割)がインターネットを利用しており、大半がスマホ・携帯での利用。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

## アンケート結果から見えるポイント②

### ☑必ずしも「地域活動に参加していない=関心が無い」という訳ではない。

- ▶ 特に10~30、50代の女性はこの割合が高い。
- ▶ 「関心あり+不参加」の理由の第1位は「余裕が無い」。こう回答した10~60代は、9割がこれを理由にあげている。
- ▶ 「関心なし+付き合いで参加」の理由では、第2位に「頼まれた」が来ている。

多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性は十分にあるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

### ☑10・20代男性は「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べてかなり高い。

### ☑中堅世代は、もっと自分たちの声を反映してほしいと思っている。

- ▶ 30代女性、40・50代男性、60代は「女性・若者の声を反映すべきと思う」と回答した割合が、地区全体の平均よりも高い。

会議・話し合いの場の設定・開催方法等を見直す必要があるのでは？

## アンケート結果から見えるポイント③

☑ 移住・定住者の受け入れ・他地域との交流の必要性については、半数近くが必要だと考えている。

▶ 全体的に、男高女低&若高壮低という傾向。

世代間・男女間で認識に若干の相違が見られる。

☑ 「この地域に住み続けたい」と考えている人の割合は全体の6割。

▶ ただし、30代以下は地区平均よりも低く、10代は4割以下。

10代の定住意向が他の世代と比べて低いのは、親の考えが影響しているのではないかと？

☑ 「自分の子どもにも住み続けてほしい」と思っている人の割合は全体の4割強。

▶ ただし、40代以下は「思わない」「わからない」が上回っている。

▶ 30・40代という子育て最中の親世代で「住み続けてほしい」と回答したは約1/3程度。

【注意！】  
このままだと、人口減少は、さらに進行する可能性あり。

## アンケート結果から見えるポイント④

☑ 「地域への愛着がある」と回答したのは約6割。

▶ ただし、10代、30～40代の地域への愛着は地区平均よりも若干低い。

親世代の愛着度合いが、子に影響していないか？（40代→10代）

☑ 近所づきあいについては、全体の6割が「悩みなし」。

▶ ただし、20～60代は「忙しすぎる」という悩みが、70～80代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりもわずかに高い。

人は減っているのに、役割・仕事量が変わっていなければ、負担感が増すのは当然。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなる可能性大。

☑ 暮らしの中の困りごとトップ3は、

①健康面への不安がある

②屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪

③災害への備えや避難

▶ ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。（特に若年層）

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。



## アンケート結果から見えるポイント⑤

☑今後、重点的に取り組むべきテーマトップ5は、

- ①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動
- ②避難訓練・連絡体制など、防災活動
- ③見回りなど、防犯・交通安全活動
- ④婚活イベント、紹介など、結婚対策
- ⑤買物・通院など、移動支援活動

▶ ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。



若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。